

伊豆署における職員実行によるニホンジカ捕獲の取り組みについて

伊豆森林管理署 松崎森林事務所 木村 慧
業務グループ 町野 弘明

1 背景

伊豆地域におけるニホンジカ生息密度は 30 ± 4.2 頭/k μ m²と推定されており、環境省が設定している適正值 1~2 頭/k μ m²と比べてかなり高い数値となっています。このため伊豆地域ではニホンジカによる食害が頻発し、下層植生の衰退やそれによる表土流出が生じています。また、人工林においては造林木の剥皮被害や苗木の食害が多く発生するなど、林業への影響も懸念されています。

この状況を受けて、伊豆森林管理署では獣害防護柵の設置（写真 1）とニホンジカの捕獲事業（写真 2）を行っています。特に捕獲事業においては、署職員による足くり罠でのニホンジカ捕獲事業（以下、職員実行によるシカ捕獲とします）を長年実施してきており、今回、当該取り組みの成果をまとめました。



（写真 1）獣害防護柵の設置

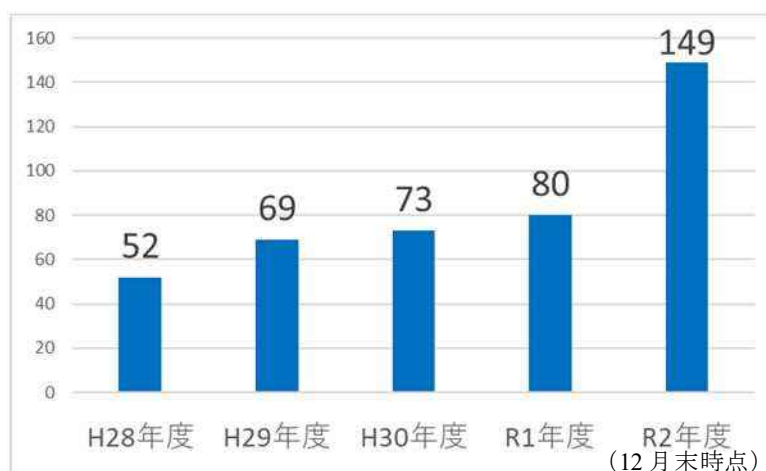


（写真 2）ニホンジカ捕獲事業

2 職員実行によるシカ捕獲の結果

（図 1）は、年度毎のニホンジカ捕獲頭数の推移です。捕獲頭数は捕獲を始めた平成 28 年度以降年々増加しており、今年度においては 12 月末時点で 149 頭を捕獲することができています。

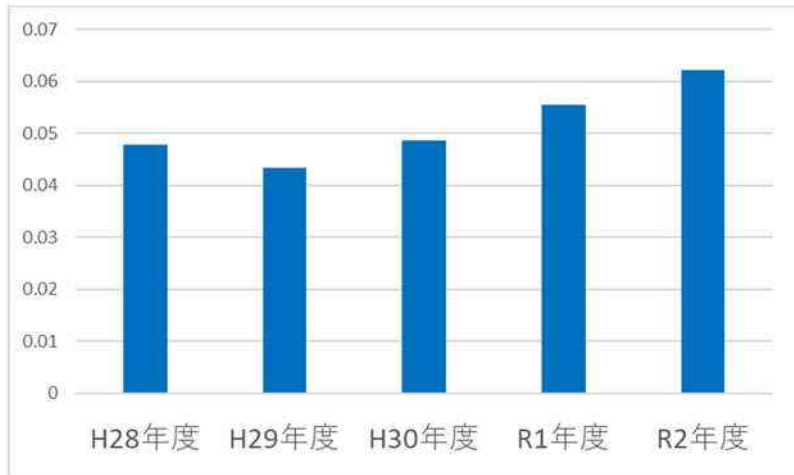
（図 2）は、年度毎の捕獲効率の推移です。捕獲効率は平成 29 年度で低下しているものの、平成



（図 1）年度毎の捕獲頭数（頭）

30年度以降は上昇しています。なお、平成29年度に一旦低下しているのは、捕獲実施2年目となりニホンジカの警戒心が強くなったことが原因と考えられます

これらのことから、職員実行によるシカ捕獲では、捕獲頭数が毎年増加しているだけでなく、徐々に効率的な捕獲が実施されていることが分かりました。



(図2) 年度毎の捕獲効率 (頭/罾稼働日数・一日当たり罾数)

3 捕獲効率上昇の要因

捕獲効率が上昇した背景には、捕獲に関するノウハウの蓄積が大きく関わっていると考えられます。そこで捕獲の内容を見直したところ、餌による誘引時と罾設置時で様々なノウハウがあることが分かりました。ここからは伊豆署で培われてきたノウハウを、誘引について5つ、罾設置について3つご紹介します。

(1) 誘引ノウハウ

一つ目は、ニホンジカの見撃情報や痕跡のあった場所を図面等に記録することです。この図面等を活用することで、ニホンジカの行動範囲を大まかに把握することができ、より効果的な場所に罾を設置することが可能となります。

二つ目は、獣道沿いの木などで囲まれた場所に誘引することです(写真3)。これにより、ニホンジカの通り道を限定でき、より罾にかかりやすい状況を作ることが出来ます。

三つ目は、あまり利用されていない獣道に誘引することです。そこで餌の摂食が見られる場合、高頻度で誘引餌を撒いて餌が豊富にあることを認識させます。これにより、1頭が罾にかかった後も再度訪れる可能性が高くなり、同一箇所で繰り返し捕獲することが出来ます。

四つ目は、誘引餌に醤油を加える



(写真3) 木などで囲まれた場所(赤丸)に誘引

No.	名称等	2/6 (水)	2/7 (水)	2/11 (金)	2/14 (月)	2/19 (水)	2/23 (日)	2/26 (月)	2/27 (木)	2/28 (金)
1-1	137道上手前	エサ	×	○	○	×	×	○	○	×
1-2	137道上面	エサ	×	×	○	○	×	○	○	△
2	137本谷支線道	エサ	×	○	○	○	×	○	○	△
3	136本谷支線道下	エサ	○	×	○	忘れ	○	○	○	○
4	141道下	エサ	○	×	×	×	×	×	×	○
5	142道	エサ	○	○	エサ	×	×	×	×	○
6	145エサシ道下	エサ	○	×	×	×	×	○	○	○
7	148エサシ道	エサ	○	×	×	×	×	○	○	○
8	147エサシ道	エサ	○	○	×	×	×	○	○	○
9	146,147境エサシ道	エサ	○	○	エサ	×	×	○	○	○
10	149道上鹿塚橋	エサ	○	○	○	×	×	○	○	○
11	149道	エサ	○	○	○	×	×	○	○	○
12	150道	エサ	○	○	×	×	×	○	○	×
13	156下り八丁歩道	エサ	○	○	○	○	×	○	○	○
14	153道	エサ	○	×	○	×	×	○	○	○
15	153道	エサ	○	○	○	○	○	○	○	○
16	153道	エサ	○	○	○	○	○	○	○	○
17	153道下	エサ	○	○	○	○	○	○	○	○
18	153道下	エサ	○	×	○	○	△	○	○	○
19	153道下	エサ	○	×	○	○	×	○	○	○
20	153下り八丁歩道	エサ	○	○	×	×	×	○	○	○
21	157道	エサ	○	○	×	×	○	○	○	○

(図3) 誘引餌の摂食度合いの表

ことです。ニホンジカが好む塩分と、醤油の強い匂いを付加することで、餌にさらなる誘引効果を加えることができます。

五つ目は、誘引餌の摂食度合いを表にすることです(図3)。これにより、餌の撒き忘れを防止できるだけでなく、罠の適地を選ぶ際に必要な情報を細かく得られます。さらに罠設置中も継続することで、捕獲期間中のニホンジカの動向も把握することができます。

(2) 罠設置ノウハウ

一つ目は、罠をカモフラージュすることです(写真4)。罠を埋め戻す際、罠設置時に掘り出した土をそのまま使用し、さらに罠の作動部分に土を敷き詰めます。これにより、罠設置箇所が周囲環境になじみ、視覚的・触覚的な違和感を消すことができます。

二つ目は、罠の作動部分を確実に踏ませることです(写真5)。罠の周囲を太い枝で囲うことで、ニホンジカが枝をまたぎ罠の中心に足を置くよう誘導します。その際、空はじきや触覚的な違和感を防ぐため、細かい枝を罠の中央から取り除くこと、罠のバネ部分を埋めた箇所に枝を配置することに注意します。



(写真4) 罠のカモフラージュ



(写真5)

罠の周囲を枝で囲う(青四角:罠)

三つ目は罠の配置方法で、平坦地で餌の周囲に罠を配置する方法(写真6)と、斜面の獣道上に罠を配置し、その前後に餌を置く方法(写真7)の二種類があります。前者では罠の間に障害物を置くことにより通り道を限定し、罠設置箇所に誘導します。後者では、ニホンジカの通り道が限定されており動きが予測しやすい斜面上の獣道に罠をかけることで、効率よくニホンジカを捕獲することができます。



(写真6) 平坦地での配置方法(青四角:罠、赤丸:障害物)



(写真7) 斜面上の獣道での配置方法 (青四角：罠)

3 まとめと今後の展望

伊豆森林管理署では職員実行によるシカ捕獲を長年実施してきており、捕獲頭数及び捕獲効率は実施当初に比べて大幅に増加しました。これは、ニホンジカの習性等を考慮しながら徐々に手法を工夫していったことが要因として考えられます。実際に捕獲の内容を見直したところ、様々なノウハウが考案され、シカ捕獲に活かされていました。

しかし、一度考案されたノウハウも、人事異動等によりその伝達が困難となることが考えられます。また、現在のところノウハウには裏付けとなるデータが無いため、捕獲手法として確立するには不十分な状態です。今後は、署内職員や次の担当者へノウハウを確実に伝達するために意見交換会等の機会を設けることや、ノウハウの効果等を具体的に検証し、捕獲手法として確立していくことが重要になります。そして、当署におけるニホンジカ捕獲の取り組みを発展させつつ、各市町と連携しながら実施していくことで、伊豆半島全体のニホンジカ密度の適正化により大きく貢献出来るのではないかと考えます。

4 参考文献

静岡県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）（第4期）